2026年度入試

入学試験問題集

【子ども学部　子ども学科】

東京成徳大学

TOKYO SEITOKU UNIVERSITY

目　次

総合型選抜　９月入試　１次選考 …… 1

総合型選抜　９月入試　２次選考 …… 2

総合型選抜　10 月入試 …… 3

総合型選抜　12 月入試 …… 4

指定校推薦入試１期 …… 5

指定校推薦入試２期 …… 6

併願型学校推薦入試１期 …… 7

併願型学校推薦入試２期 …… 8

編入学試験　小論文…… 9

一般選抜　D日程入試…… 10

併設校入試（専願）１次選考 …… 11

併設校入試（専願）２次選考 …… 12

出題意図…… 13

※社会人入試は志願者がいなかったため実施しておりません。

「一般選抜 A 日程・B 日程」の問題は、「2026 年度入試問題集　一般選抜 A 日程入試・B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

●総合型選抜　9 月入試　1 次選考

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

設問 1．著者は、「子ども差別」が生まれる背景にはなにがあると考えていますか。（横書き・300 文字以内）

設問 2．「子ども差別」をなくすためには、どのようなことが大切ですか。文章をふまえ、あなたの考えを書きなさい。（横書き・300 文字以内）

子どもはおとなと対等平等の権利行使主体です。にもかかわらず、子どもへの虐待や権利侵害が頻発し、子どもの意見が尊重されないのはなぜでしょうか。それは私たちの社会に根強い子ども差別があるからです。アドボカシー（出題者注）の本質はこの子ども差別との闘いであると言えます。

子ども差別は女性差別と深い関係があります。子どもの声が軽く扱われる背景には、「女、子どもは黙っていろ」という文化があるからです。おとなの男性が力をもち、女性や子どもを支配し、声を抑え込んできたのです。これを家父長制と呼びます。

そのため子ども虐待の背景に母親への DV があることが少なくありません。

（中略）

このような支配とコントロールの中で、女性も声を出すことができなくなっていくのです。このような女性差別のことを英語ではセクシズムと言います。子どもの声が聴かれない背景にも同じような子ども差別の構造があり、英語でアダルティズムまたはチャイルディズムと言います。子どもたちはおとなに比べて価値の低い劣った存在だという見方です。「子どもだまし」「子どもの使い」など、子どもに関する言葉に蔑視の意味が含まれているものが数多くあります。「お前はまだ子どもだ」というのは人を蔑む時に投げかける言葉なのです。

アダルティズムに関する研究や運動は、欧米では一定程度行われてきました。アメリカのベルは次のように述べています（Bell 1995：2）。

> アダルティズムの本質は、私たちの社会にある子どもへの軽蔑です。ほとんどの場合、子どもはおとなよりも重要でなく劣っていると思われています。子どもはまともに取り合ってもらえないし、地域社会での生活に関する意思決定の場に参加することもできません。ほとんどすべての若者の生活にとっておとなはとても重要です。そのため「アダルティズム」と私が呼ぶものを理解するのは困難なのです。

またブルーエルは、子ども差別をチャイルディズムと名づけ、次のように書いています（Young-Bruehl 2012：36-37）。

> チャイルディズムとは、標的とされる集団、すなわち「子ども」を、おとなによって生み出されかつ所有され、おとなのニーズとファンタジーに奉仕させる未熟な存在だとみなす信念体系と定義される。
>
> チャイルディズムは、子どもは所有物であり、おとなのニーズに奉仕させるために管理し、隷属させ、殺害することもできる（あるいはそうすべきだ）という信念に基づく、子どもへの偏見である、と定義することができる。

このような子ども差別は、子どもをおとなよりも価値が低い存在と認識し、おとなのニーズに奉仕すべきだとする信念から生じます。ブルーエルはおとなに内面化された子ども差別を、子どもへの軽蔑・憎悪・嫉妬・庇護の 4 つの要素から分析しています。こうしたものを背景として、子どもへの暴力や虐待が行われ、それが正当化されてきたのです。

（出題者注）アドボカシー：他者の気持ちや意見を代弁する思想や実践、またはそれを実現するための運動や制度全般

出典：栄留里美編『子どもアドボカシー Q & A　30 の問いからわかる実践ガイド』明石書店、2024 年（ISBN：4750358134）を一部省略・改変

●総合型選抜　９月入試　２次選考

【レポート課題】

【問題】
「子どもと外遊び」について、自身の経験を踏まえ感じることや考えていることを書いてください。（横書き 600 文字以上）

●総合型選抜　10 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の図表は、学歴、職種（教員）、職位について表したものである。各設問を読み、図表を参照しながら解答しなさい。

設問１．図表をもとに、女性の学歴、職種（教員）、職位に関する傾向や特徴について、男女差に着目しながら 300 字以内で簡潔に説明しなさい。

設問２．設問１で述べた特徴や男女差が生じる背景について、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい

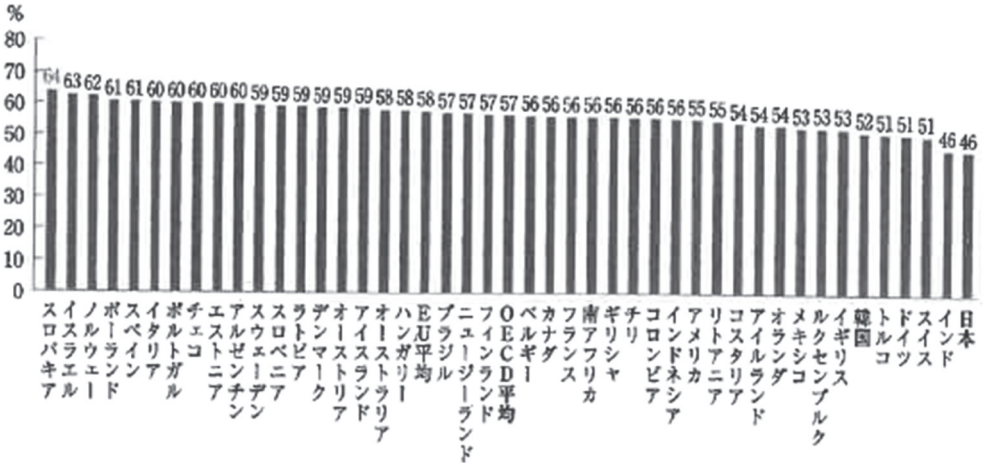


図　学士・修士・博士号を持つ成人（25-34 歳）に占める女性の割合（2021 年）

※ OECD *Education at a Glance 2022*, Figure A1.3

表　本務教員の男女別人数

	教員全体			管理職に占める女性割合（%）		
	男（人）	女（人）	女性割合（%）	学校長	副学校長	教頭
幼稚園	6,129	78,788	92.8	58.7	78.6	89.3
幼保連携型認定こども園	6,870	100,382	93.6	62.5	80.8	90.6
小学校	146,385	236,858	61.8	25.2	33.0	30.8
中学校	127,389	98,656	43.6	10.0	18.3	17.8
高等学校	145,959	71,221	32.8	9.5	12.5	13.1
中等教育学校	1,627	853	34.4	6.4	16.7	12.3
特別支援学校	27,517	46,299	62.7	28.8	37.3	34.0
高等専門学校	3,600	489	12.0	3.5	—	—
短期大学	3,149	3,727	54.2	20.3	33.7	—
大学	138,312	50,530	26.8	13.5	15.1	—

※文部科学省『学校教員統計調査』令和４年度版より

●総合型選抜　12 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、【設問】に答えなさい。

【設問】本文の内容を踏まえ、以下の①・②の両方の問いについて、合わせて 800 字以内で論じてください。

①子どもの選択が阻害される現状について述べてください。
その際、「社会的な意味合いとしてランドセル」「今の親世代の意識」の２つの観点を含めること。

②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えますか。あなたの考えを述べてください（ランドセルの色選択の話題のみに限らず、他の例を出しても構いません）。

※解答用紙には①・②それぞれの内容が分かるように、①・②を記載してから述べてください。

以前、子どもを持つ女性を主なターゲットとした雑誌にインタビューを受けたことがあります。その時のテーマが、息子が赤いランドセルを選ぶことを容認できるか、というものでした。

これは、実際にあったケースに基づいた記事でした。ランドセルといえば、小学校に入ること、つまり、子どもが大きくなったことの象徴です。値段も高いし、低学年の児童が持つには大きく、高学年の児童が持つには小さいこのかばんを購入することにどれだけの意義があるのか、気になるところもあります。とはいえ、祖父母などの親族がランドセルを購入することを喜ぶなど、社会的な意味合いとしてランドセルの必要性はまだ残っているのかな、などと思ったりもします。

筆者が小学生のころは、ほぼ 100％女児は赤色、男児は黒色のランドセルで、私立の小学校に通う同じくらいの年齢の子どもの持つバッグを見てうらやましく思ったものです。ですが、ランドセルの色は、ここ数十年で多様性を増してきていて、ランドセルを選び、購入するまでの一連の活動を指す「ラン活」という言葉もあります。2024 年５月のセイバン社の調査によれば、女児にはかなり多様性がある一方で、男児は比較的画一的なようです。実際、男児では、黒系が 66％、青系が 19％で、この２つで 85％を占めます。一方、女児では、ピンク系が 27％、紫系 21％、青系が 15％、茶色系 10％で、かつてはほとんどの女児が持っていた赤系はたったの 7％です。

確かに、赤色のランドセルを持った女児を見ることは減りましたが、赤色のランドセルを持つ男児を見ることもそれほど多くありません。このような状況で、自分の息子が赤色のランドセルを選びたいと言ったときに、それを尊重できるかという問題です。

しかし、考えてみると、これは奇妙な問題です。男児が赤色を選ぶのはそれほど不思議なことではないはずです。戦隊もののエースはたいてい赤色ですし、サッカーではマンチェスター・ユナイテッド、リバプール、スペイン代表、浦和レッズ、野球でも広島カープやＭＬＢのエンゼルスなど、赤色のユニフォームを着用しているチームは少なくありません。男児が赤色を好むことは、全然不思議ではないのです。

結局のところ、今の親の世代では、「赤色のランドセル＝女児」という記憶があり、その思い込みが子どもの選択を阻害しています。小学校以降はより友達関係が大事になっているので、友達同士での同調圧力の中で、赤色を持つことが心配になるということもあるでしょう。

こういう問題が出てくるのは、子どもの好みに多様性が出てきたからかもしれません。

引用文献：
森口佑介　2024『つくられる子どもの性差』光文社新書　pp.48-51

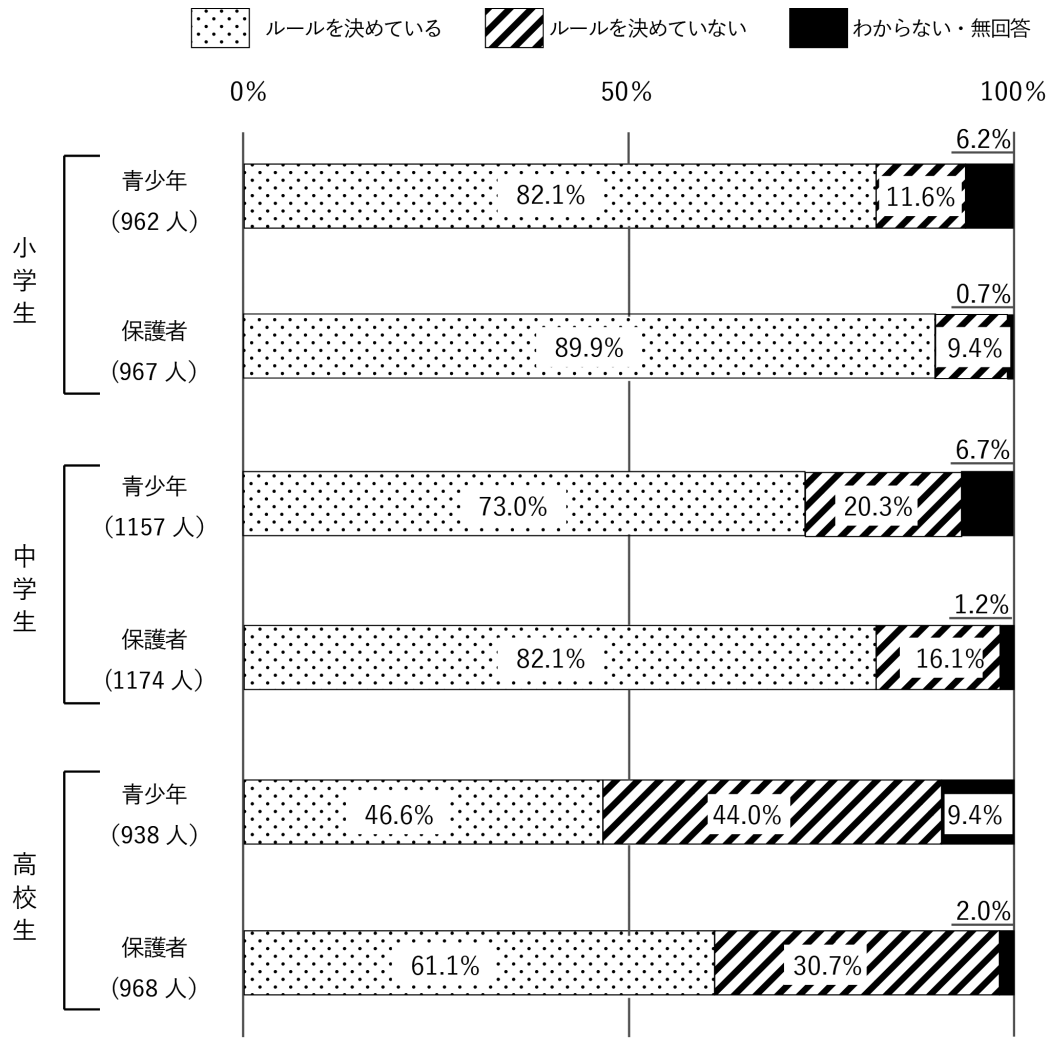
註：著者の森口佑介氏は、1979 年生まれである（2025 年現在で 46 歳）。

●指定校推薦入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

図 1 は、満 10 歳から満 17 歳の青少年及びその保護者に対して実施した調査結果のうち、子どものインターネット利用に関する家庭のルールの有無の認識の比較を示しています。学校種別ごとに、上段は「青少年」本人、下段はその「保護者」に対して調査した結果を、比較しやすいように図示しています。

まず、図 1 について、図から読み取れる数値を 3 つ以上含めながら説明してください。次に、子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについて、あなたがどのように考えているのかを述べてください。そして、上述してきたことを踏まえて、保育者や教育者といった子どもに関わる職業に就いている人が、子どものネット依存を予防するために、どのように関わるべきかについて、あなたの考えを論じてください。以上のことを 800 字以内でまとめて下さい。



※（人）の数字は、回答者数を示す。

図 1　青少年とその保護者のインターネット利用に関する家庭のルールの有無の認識の比較（学校種別）

（注 1）インターネットを利用していると回答した青少年及び、インターネットを青少年の子どもが利用していると回答した保護者をベースに集計。

（注 2）小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。

出典：子ども家庭庁（2025）「令和 6 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（概要）」
※作問者により一部改変

●指定校推薦入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、【設問】に答えなさい。
【設問】本文の内容を踏まえ、以下の①・②の両方の問いについて、合わせて 800 字以内で論じてください。
①子どもの選択が阻害される現状について述べてください。
その際、「社会的な意味合いとしてランドセル」「今の親世代の意識」の 2 つの観点を含めること。
②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えますか。あなたの考えを述べてください（ランドセルの色選択の話題のみに限らず、他の例を出しても構いません）。
※解答用紙には①・②それぞれの内容が分かるように、①・②を記載してから述べてください。

以前、子どもを持つ女性を主なターゲットとした雑誌にインタビューを受けたことがあります。その時のテーマが、息子が赤いランドセルを選ぶことを容認できるか、というものでした。

これは、実際にあったケースに基づいた記事でした。ランドセルといえば、小学校に入ること、つまり、子どもが大きくなったことの象徴です。値段も高いし、低学年の児童が持つには大きく、高学年の児童が持つには小さいこのかばんを購入することにどれだけの意義があるのか、気になるところもあります。とはいえ、祖父母などの親族がランドセルを購入することを喜ぶなど、社会的な意味合いとしてランドセルの必要性はまだ残っているのかな、などと思ったりもします。

筆者が小学生のころは、ほぼ 100%女児は赤色、男児は黒色のランドセルで、私立の小学校に通う同じくらいの年齢の子どもの持つバッグを見てうらやましく思ったものです。ですが、ランドセルの色は、ここ数十年で多様性を増してきていて、ランドセルを選び、購入するまでの一連の活動を指す「ラン活」という言葉もあります。2024 年 5 月のセイバン社の調査によれば、女児にはかなり多様性がある一方で、男児は比較的画一的なようです。実際、男児では、黒系が 66%、青系が 19%で、この 2 つで 85%を占めます。一方、女児では、ピンク系が 27%、紫系 21%、青系が 15%、茶色系 10%で、かつてはほとんどの女児が持っていた赤系はたったの 7%です。

確かに、赤色のランドセルを持った女児を見ることは減りましたが、赤色のランドセルを持つ男児を見ることもそれほど多くありません。このような状況で、自分の息子が赤色のランドセルを選びたいと言ったときに、それを尊重できるかという問題です。

しかし、考えてみると、これは奇妙な問題です。男児が赤色を選ぶのはそれほど不思議なことではないはずです。戦隊もののエースはたいてい赤色ですし、サッカーではマンチェスター・ユナイテッド、リバプール、スペイン代表、浦和レッズ、野球でも広島カープやＭＬＢのエンゼルスなど、赤色のユニフォームを着用しているチームは少なくありません。男児が赤色を好むことは、全然不思議ではないのです。

結局のところ、今の親の世代では、「赤色のランドセル＝女児」という記憶があり、その思い込みが子どもの選択を阻害しています。小学校以降はより友達関係が大事になっているので、友達同士での同調圧力の中で、赤色を持つことが心配になるということもあるでしょう。

こういう問題が出てくるのは、子どもの好みに多様性が出てきたからかもしれません。

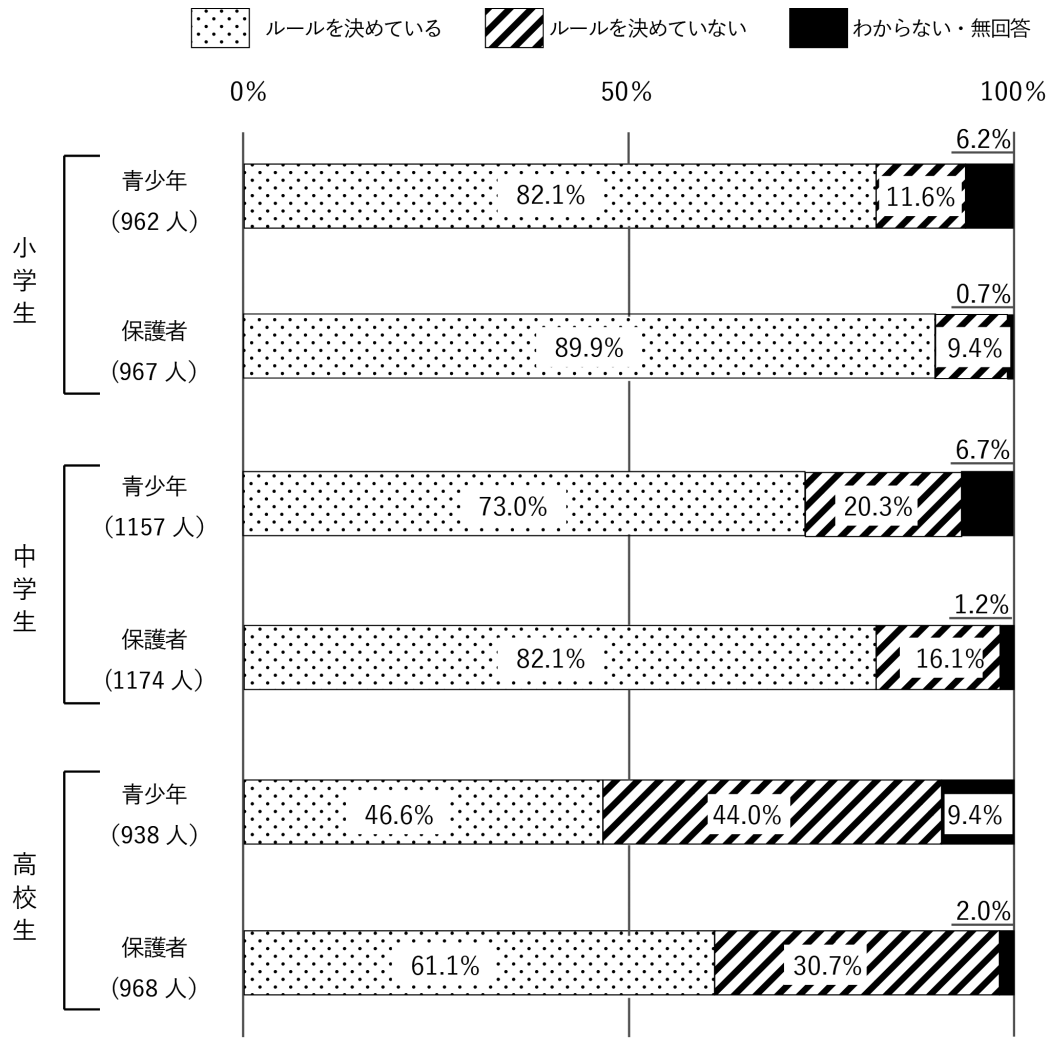
引用文献：
森口佑介　2024『つくられる子どもの性差』光文社新書　pp.48-51
註：著者の森口佑介氏は、1979 年生まれである（2025 年現在で 46 歳）。

●併願型学校推薦入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

図 1 は、満 10 歳から満 17 歳の青少年及びその保護者に対して実施した調査結果のうち、子どものインターネット利用に関する家庭のルールの有無の認識の比較を示しています。学校種別ごとに、上段は「青少年」本人、下段はその「保護者」に対して調査した結果を、比較しやすいように図示しています。

まず、図 1 について、図から読み取れる数値を 3 つ以上含めながら説明してください。次に、子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについて、あなたがどのように考えているのかを述べてください。そして、上述してきたことを踏まえて、保育者や教育者といった子どもに関わる職業に就いている人が、子どものネット依存を予防するために、どのように関わるべきかについて、あなたの考えを論じてください。以上のことを 800 字以内でまとめて下さい。



※（人）の数字は、回答者数を示す。

図 1　青少年とその保護者のインターネット利用に関する家庭のルールの有無の認識の比較（学校種別）

（注 1）インターネットを利用していると回答した青少年及び、インターネットを青少年の子どもが利用していると回答した保護者をベースに集計。

（注 2）小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。

出典：子ども家庭庁（2025）「令和 6 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（概要）」
※作問者により一部改変

●併願型学校推薦入試２期

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、【設問】に答えなさい。
【設問】本文の内容を踏まえ、以下の①・②の両方の問いについて、合わせて 800 字以内で論じてください。
①子どもの選択が阻害される現状について述べてください。
その際、「社会的な意味合いとしてランドセル」「今の親世代の意識」の２つの観点を含めること。
②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えますか。あなたの考えを述べてください（ランドセルの色選択の話題のみに限らず、他の例を出しても構いません）。
※解答用紙には①・②それぞれの内容が分かるように、①・②を記載してから述べてください。

以前、子どもを持つ女性を主なターゲットとした雑誌にインタビューを受けたことがあります。その時のテーマが、息子が赤いランドセルを選ぶことを容認できるか、というものでした。

これは、実際にあったケースに基づいた記事でした。ランドセルといえば、小学校に入ること、つまり、子どもが大きくなったことの象徴です。値段も高いし、低学年の児童が持つには大きく、高学年の児童が持つには小さいこのかばんを購入することにどれだけの意義があるのか、気になるところもあります。とはいえ、祖父母などの親族がランドセルを購入することを喜ぶなど、社会的な意味合いとしてランドセルの必要性はまだ残っているのかな、などと思ったりもします。

筆者が小学生のころは、ほぼ 100%女児は赤色、男児は黒色のランドセルで、私立の小学校に通う同じくらいの年齢の子どもの持つバッグを見てうらやましく思ったものです。ですが、ランドセルの色は、ここ数十年で多様性を増してきていて、ランドセルを選び、購入するまでの一連の活動を指す「ラン活」という言葉もあります。2024 年５月のセイバン社の調査によれば、女児にはかなり多様性がある一方で、男児は比較的画一的なようです。実際、男児では、黒系が 66%、青系が 19%で、この２つで 85%を占めます。一方、女児では、ピンク系が 27%、紫系 21%、青系が 15%、茶色系 10%で、かつてはほとんどの女児が持っていた赤系はたったの 7%です。

確かに、赤色のランドセルを持った女児を見ることは減りましたが、赤色のランドセルを持つ男児を見ることもそれほど多くありません。このような状況で、自分の息子が赤色のランドセルを選びたいと言ったときに、それを尊重できるかという問題です。

しかし、考えてみると、これは奇妙な問題です。男児が赤色を選ぶのはそれほど不思議なことではないはずです。戦隊もののエースはたいてい赤色ですし、サッカーではマンチェスター・ユナイテッド、リバプール、スペイン代表、浦和レッズ、野球でも広島カープやＭＬＢのエンゼルスなど、赤色のユニフォームを着用しているチームは少なくありません。男児が赤色を好むことは、全然不思議ではないのです。

結局のところ、今の親の世代では、「赤色のランドセル＝女児」という記憶があり、その思い込みが子どもの選択を阻害しています。小学校以降はより友達関係が大事になっているので、友達同士での同調圧力の中で、赤色を持つことが心配になるということもあるでしょう。

こういう問題が出てくるのは、子どもの好みに多様性が出てきたからかもしれません。

引用文献：
森口佑介　2024『つくられる子どもの性差』光文社新書　pp.48-51
註：著者の森口佑介氏は、1979 年生まれである（2025 年現在で 46 歳）。

●編入学試験

【小論文】（試験時間：60 分）

図 1 は保護者を対象に絵本や本の読み聞かせの頻度について、図 2 は読み聞かせをしている保護者を対象に一日あたりの絵本や本の読み聞かせの時間について調査した結果を示したものです。まず、この 2 つの図から読み取れることを説明してください。次に、幼児期における読み聞かせの意義についてあなたがどのように認識しているかを述べてください。そして、上述してきたことを踏まえて、保育・教育の現場において、絵本や本の読み聞かせに関してどのような活動が効果的かあなたの考えを論じてください。以上のことを 800 字以内でまとめてください。

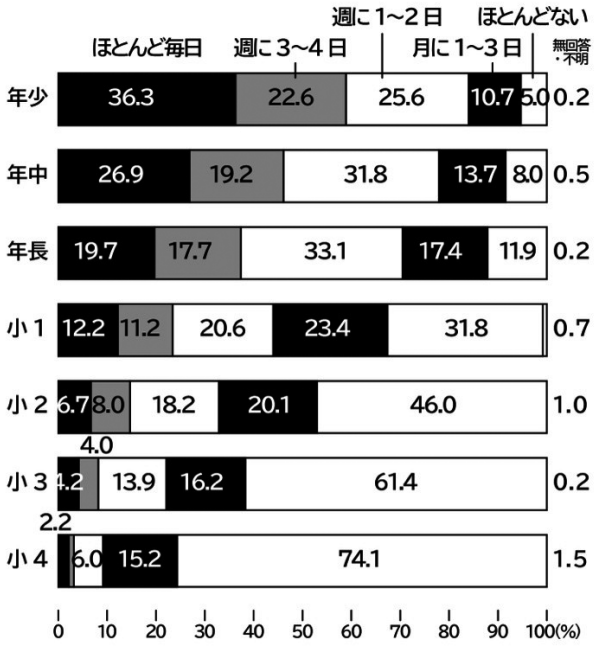


図 1：絵本や本の読み聞かせの頻度

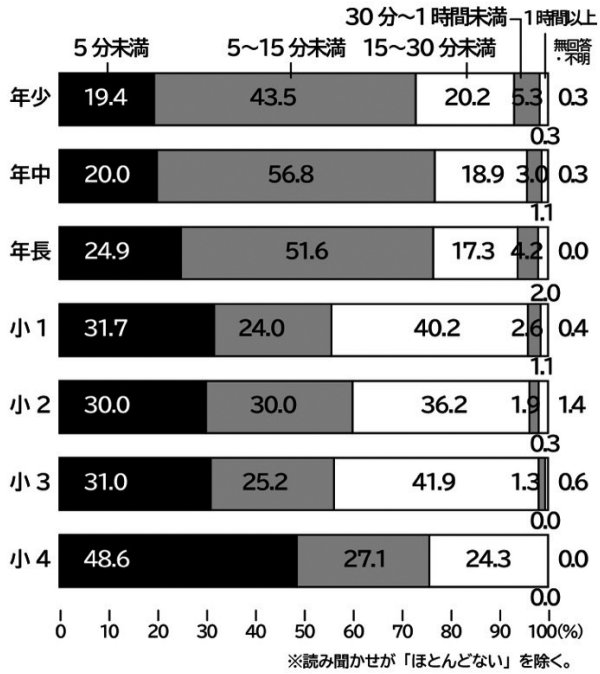


図 2：絵本や本の読み聞かせの時間（1 日）

出典：ベネッセ教育総合研究所「幼児期の家庭教育調査」（2018 年）内容を一部改変

●一般選抜　D 日程入試

【小論文】（試験時間：60 分）

三木清『人生論ノート』に書かれた以下の文章を読み、【設問１】および【設問２】に答えなさい。

【設問１】（200 字以内）

著者は「幸福はつねに外に現れる」と述べています。

あなたの考える「しあわせ（幸福）な気持ちが外に出ている様子」を、一つ取り上げて説明しなさい。また、そのような様子が、まわりの人をどのようにしあわせ（幸福）な気持ちにするか、具体的に書きなさい。

【設問２】（600 字以内）

著者は「幸福は力である」と述べています。また「徳が力である」とも述べています。

ここでいう「徳」とは、思いやりや正直さ、やさしさなど、人として大切にしたい生き方や心のあり方を指します。

あなたがこれまでに「人のため」「社会のため」に行動して、うれしかったり、やりがいを感じたりした経験を一つ思い出しなさい。その経験を具体的に説明したうえで、そのときのあなたの「徳（人として大切にしたい生き方）」と「自分のしあわせ（幸福）」との関係について、あなたの考えを書きなさい。

幸福は徳に反するものでなく、むしろ幸福そのものが徳である。もちろん、他人の幸福について考えねばならぬというのは正しい。しかし我々は我々の愛する者に対して、自分が幸福であることよりなお以上の善いことを為し得るであろうか。

愛するもののために死んだゆえに彼等は幸福であったのでなく、反対に、彼等は幸福であったゆえに愛するもののために死ぬる力を有したのである。日常の小さな仕事から、喜んで自分を犠牲にするというに至るまで、あらゆる事柄において、幸福は力である。徳が力であるということは幸福の何よりもよく示すところである。（中略）

今日ひとが幸福について考えないのは、人格の分解の時代と呼ばれる現代の特徴に相応している。そしてこの事実は逆に幸福が人格であるという命題をいわば世界史的規模において証明するものである。

幸福は人格である。ひとが外套を脱ぎすてるようにいつでも気楽にほかの幸福は脱ぎすてることのできる者が最も幸福な人である。しかし真の幸福は、彼はこれを捨て去らないし、捨て去ることもできない。彼の幸福は彼の生命と同じように彼自身と一つのものである。この幸福をもって彼はあらゆる困難と闘うのである。幸福を武器として闘う者のみが斃（たお）れてもなお幸福である。

機嫌がよいこと、丁寧なこと、親切なこと、寛大なこと、等々、幸福はつねに外に現れる。歌わぬ詩人というものは真の詩人でないごとく、単に内面的であるというような幸福は真の幸福ではないであろう。幸福は表現的なものである。鳥の歌うがごとくおのずから外に現れて他の人を幸福にするものが真の幸福である。

引用文献：三木清「幸福について」『人生論ノート 他二篇』角川ソフィア文庫, KADOKAWA, 2017 年, pp.20-25, ISBN 978-4-04-400282-4（本文の語句・表記に改変なし。一部を（中略）として省略）。

●併設校入試（専願）　1 次選考

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

設問１．著者は、「子ども差別」が生まれる背景にはなにがあると考えていますか。（横書き・300 文字以内）

設問２．「子ども差別」をなくすためには、どのようなことが大切ですか。文章をふまえ、あなたの考えを書きなさい。（横書き・300 文字以内）

子どもはおとなと対等平等の権利行使主体です。にもかかわらず、子どもへの虐待や権利侵害が頻発し、子どもの意見が尊重されないのはなぜでしょうか。それは私たちの社会に根強い子ども差別があるからです。アドボカシー（出題者注）の本質はこの子ども差別との闘いであると言えます。

子ども差別は女性差別と深い関係があります。子どもの声が軽く扱われる背景には、「女、子どもは黙っていろ」という文化があるからです。おとなの男性が力をもち、女性や子どもを支配し、声を抑え込んできたのです。これを家父長制と呼びます。

そのため子ども虐待の背景に母親への DV があることが少なくありません。

（中略）

このような支配とコントロールの中で、女性も声を出すことができなくなっていくのです。このような女性差別のことを英語ではセクシズムと言います。子どもの声が聴かれない背景にも同じような子ども差別の構造があり、英語でアダルティズムまたはチャイルディズムと言います。子どもたちはおとなに比べて価値の低い劣った存在だという見方です。「子どもだまし」「子どもの使い」など、子どもに関する言葉に蔑視の意味が含まれているものが数多くあります。「お前はまだ子どもだ」というのは人を蔑む時に投げかける言葉なのです。

アダルティズムに関する研究や運動は、欧米では一定程度行われてきました。アメリカのベルは次のように述べています（Bell 1995：2）。

> アダルティズムの本質は、私たちの社会にある子どもへの軽蔑です。ほとんどの場合、子どもはおとなよりも重要でなく劣っていると思われています。子どもはまともに取り合ってもらえないし、地域社会での生活に関する意思決定の場に参加することもできません。ほとんどすべての若者の生活にとっておとなはとても重要です。そのため「アダルティズム」と私が呼ぶものを理解するのは困難なのです。

またブルーエルは、子ども差別をチャイルディズムと名づけ、次のように書いています（Young-Bruehl 2012：36-37）。

> チャイルディズムとは、標的とされる集団、すなわち「子ども」を、おとなによって生み出されかつ所有され、おとなのニーズとファンタジーに奉仕させる未熟な存在だとみなす信念体系と定義される。
>
> チャイルディズムは、子どもは所有物であり、おとなのニーズに奉仕させるために管理し、隷属させ、殺害することもできる（あるいはそうすべきだ）という信念に基づく、子どもへの偏見である、と定義することができる。

このような子ども差別は、子どもをおとなよりも価値が低い存在と認識し、おとなのニーズに奉仕すべきだとする信念から生じます。ブルーエルはおとなに内面化された子ども差別を、子どもへの軽蔑・憎悪・嫉妬・庇護の４つの要素から分析しています。こうしたものを背景として、子どもへの暴力や虐待が行われ、それが正当化されてきたのです。

（出題者注）アドボカシー：他者の気持ちや意見を代弁する思想や実践、またはそれを実現するための運動や制度全般

出典：栄留里美編『子どもアドボカシー Q & A　30 の問いからわかる実践ガイド』明石書店、2024 年（ISBN：4750358134）を一部省略・改変

●併設校入試（専願）　2 次選考

【小論文】（試験時間：60 分）

【問題】
「子どもと外遊び」について、自身の経験を踏まえ感じることや考えていることを書いてください。（横書き 600 文字以上）

●出題意図

総合型選抜　９月入試　１次選考【出題意図】

昨今の子どもについての議論においては、子どもを無力で庇護すべきだけの存在とみなすのではなく、子どもを大人と対等な権利主体として尊重することの大切が指摘されている。問題文は、そうした子ども観に基づいた支援の形であるアドボカシーについての文章からの抜粋である。子ども学部での学びに備え、受験生が、現代社会に根強く残る「子ども差別」に向き合う姿勢があるかどうか、その背景になにがあるのかを検討する思考力があるかどうかを確認することを意図して出題した。

総合型選抜　９月入試　２次選考【出題意図】

子どもの体験活動の教育的意義を理解し、「体験格差」や「直接体験（野外活動・外遊び）不足」等の子どもを取り巻く環境に対して抽象的な理解ではなく、具体的なアプローチを模索することで子どもの生活や遊びをより身近に感じ、それを守っていく大人としての自覚をもってほしいと考える。

参考資料：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm（文部科学省 HP より）

総合型選抜　10 月入試【出題意図】

近年、経済・教育・健康・政治など多様な分野において、男女平等の実現が強く求められている。しかし、日本社会においては、依然として男女間に不平等が存在しており、特に高校卒業後の進路選択や就職の場面において顕著な差が見られる。本問題では、図表に示されたデータをもとに、男女間にどのような差が生じているのかを読み取り、その背景にある社会的要因について自らの視点で考察することが求められる。

設問１．男女別の学歴、職種（教員）、職位について、図表の情報を相互に関連づけながら読み取る力を問う問題である。

設問２．設問１で論じた内容をふまえ、日本において高校卒業後の進路や就職における男女差が生じる背景について、現代の社会問題と関連づけながら、自分の意見を説得的に述べる力を問う設問である。

総合型選抜　12 月入試【出題意図】

高等学校学習指導要領「家庭」では、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指すことが明記されており、家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，性別や世代を超えて，男女が家族や社会の中で平等な関係を築き，共に生きる社会の一員として役割と責任を果たし，家庭や地域の生活を主体的に創造していくことが重要であることを認識させることとしている。さらに、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されるとある。

性別に関係なく自分らしく生きていくことは、人生を豊かにすることにつながる。子どもは周囲の言動から強く影響を受ける。「男らしさ」「女らしさ」の固定観念は周囲の大人の態度の影響、特に保育者や学校教員など教育現場の影響は看過できない。そのため、保育や教育を学ぶにあたっては、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重する視点を持つ必要がある。

今回の設問では、つくられる性差について、ランドセルの色選択に関する社会的様相を例に挙げた文章を理解し、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重することの重要性について自分なりに考え、論理的に述べることができるかを評価のポイントとする。

【設問】文章を理解したうえで、つくられる性差に関する自身の考えを述べることができるか。

①つくられる性差を例に挙げた文章から、子どもの選択が阻害される現状について「社会的な意味合いとしてのランドセル」と「今の親世代の意識」の２つの観点を含めて述べること。

②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えるか自身の考えを含めて述べること。

参考：高等学習指導要領（平成 30 年）解説「家庭」編

指定校推薦入試１期【出題意図】

近年、子どものスマートフォン所持率が高くなり、ネット・ゲーム依存の広がりに対して警鐘が鳴らされるようになった。ネット依存の診断基準は確立していないものの、「ゲーム障害」が 2019 年の世界保健機関（WHO）の総会において国際的に新たな疾患として認められた。

現行の高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「保健体育編 体育編」(「保健」の内容（１）「現代社会と健康」）には、「ギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖（しへき）行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする」と記載され、精神疾患の一つとしてギャンブル等依存症を含めた依存症について取り上げることになった。この後に、文部科学省は、『「ギャンブル等依存症」などを予防するために』という教師向け指導参考資料を発行し、ギャンブル等やゲームの嗜癖行動は開始年齢が早いほど、「依存症」に陥りやすいことから、学校において行動嗜癖に関する指導を行うことが大切であると述べている。本資料では、インターネットを利用してゲームができるスマートフォン、携帯ゲーム等は、行動嗜癖に陥る要因である「いつでも、どこでもできる」ことから、ゲームへののめり込みに対して、小学生、中学生のみならず、高校生においても注意が必要ともある。

今回の試験では、インターネットを利用していると回答した青少年と、インターネットを青少年の子どもが利用していると回答した保護者について、①家庭のルールの有無に関する認識の差を読み取ること、②子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについて、自身の認識を述べること、③それらを踏まえて子どもに関わる職業に就いている人が子どものネット依存を予防するために、どのように関わるべきかを論じてもらうこととした。

この論述を通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。設問に対して論理的で説得力のある文章であれば、どのような観点から論じてもかまわないが、参考までに回答する際の考え方 の一例を示す。

①学校種別ごとに、青少年と青少年の保護者の「ルールの有無に関する認識のギャップ」を数値で提示しながら、学校種別が上がるにつれてその差が拡大傾向にあることを読み取りながら論じることが考えられる。

②子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについては、これまでの家庭生活や学校等でルールを設けることの意義等を学んできたと考えられるので、そうした経験を基に論じることができると思われる。例えば、「子ども本人がなぜそのルールが必要なのかを理解することの重要性」や「親子でルールのない場合のリスクを知り、子ども本人が節度ある使用を学び、大人が意識してリスクに対処することの重要性」などの認識が示されるとよい。

③子どもに関わる職業に就いている人が子どものネット依存を予防するためにどのように関わるべきかについては、例えば、利用時間・利用場所・利用内容等についての家庭のルール作りを推進する際に、保護者がルールを決めていると認識していても子ども本人にはその認識がない場合などの実態を踏まえ、なぜそのルールが必要なのかを子ども本人が理解できるように家庭と連携するための取り組みを園や学校で行う機会を増やす、などの観点から具体的な関わり方を論じるとよい。

指定校推薦入試２期【出題意図】

高等学校学習指導要領「家庭」では、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指すことが明記されており、家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，性別や世代を超えて，男女が家族や社会の中で平等な関係を築き，共に生きる社会の一員として役割と責任を果たし，家庭や地域の生活を主体的に創造していくことが重要であることを認識させることとしている。さらに、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されるとある。

性別に関係なく自分らしく生きていくことは、人生を豊かにすることにつながる。子どもは周囲の言動から強く影響を受ける。「男らしさ」「女らしさ」の固定観念は周囲の大人の態度の影響、特に保育者や学校教員など教育現場の影響は看過できない。そのため、保育や教育を学ぶにあたっては、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重する視点を持つ必要がある。

今回の設問では、つくられる性差について、ランドセルの色選択に関する社会的様相を例に挙げた文章を理解し、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重することの重要性について自分なりに考え、論理的に述べることができるかを評価のポイントとする。

【設問】文章を理解したうえで、つくられる性差に関する自身の考えを述べることができるか。

①つくられる性差を例に挙げた文章から、子どもの選択が阻害される現状について「社会的な意味合いとしてのランドセル」と「今の親世代の意識」の２つの観点を含めて述べること。

②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えるか自身の考えを含めて述べること。

参考：高等学習指導要領（平成 30 年）解説「家庭」編

併願型学校推薦入試 1 期【出題意図】

近年、子どものスマートフォン所持率が高くなり、ネット・ゲーム依存の広がりに対して警鐘が鳴らされるようになった。ネット依存の診断基準は確立していないものの、「ゲーム障害」が 2019 年の世界保健機関（WHO）の総会において国際的に新たな疾患として認められた。

現行の高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説「保健体育編 体育編」(「保健」の内容（１）「現代社会と健康」）には、「ギャンブル等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖（しへき）行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする」と記載され、精神疾患の一つとしてギャンブル等依存症を含めた依存症について取り上げることになった。この後に、文部科学省は、『「ギャンブル等依存症」などを予防するために』という教師向け指導参考資料を発行し、ギャンブル等やゲームの嗜癖行動は開始年齢が早いほど、「依存症」に陥りやすいことから、学校において行動嗜癖に関する指導を行うことが大切であると述べている。本資料では、インターネットを利用してゲームができるスマートフォン、携帯ゲーム等は、行動嗜癖に陥る要因である「いつでも、どこでもできる」ことから、ゲームへののめり込みに対して、小学生、中学生のみならず、高校生においても注意が必要ともある。

今回の試験では、インターネットを利用していると回答した青少年と、インターネットを青少年の子どもが利用していると回答した保護者について、①家庭のルールの有無に関する認識の差を読み取ること、②子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについて、自身の認識を述べること、③それらを踏まえて子どもに関わる職業に就いている人が子どものネット依存を予防するために、どのように関わるべきかを論じてもらうこととした。

この論述を通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。設問に対して論理的で説得力のある文章であれば、どのような観点から論じてもかまわないが、参考までに回答する際の考え方 の一例を示す。

①学校種別ごとに、青少年と青少年の保護者の「ルールの有無に関する認識のギャップ」を数値で提示しながら、学校種別が上がるにつれてその差が拡大傾向にあることを読み取りながら論じることが考えられる。

②子どものインターネット利用に関して家庭のルールを決めることについては、これまでの家庭生活や学校等でルールを設けることの意義等を学んできたと考えられるので、そうした経験を基に論じることができると思われる。例えば、「子ども本人がなぜそのルールが必要なのかを理解することの重要性」や「親子でルールのない場合のリスクを知り、子ども本人が節度ある使用を学び、大人が意識してリスクに対処することの重要性」などの認識が示されるとよい。

③子どもに関わる職業に就いている人が子どものネット依存を予防するためにどのように関わるべきかについては、例えば、利用時間・利用場所・利用内容等についての家庭のルール作りを推進する際に、保護者がルールを決めていると認識していても子ども本人にはその認識がない場合などの実態を踏まえ、なぜそのルールが必要なのかを子ども本人が理解できるように家庭と連携するための取り組みを園や学校で行う機会を増やす、などの観点から具体的な関わり方を論じるとよい。

併願型学校推薦入試 2 期【出題意図】

高等学校学習指導要領「家庭」では、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指すことが明記されており、家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，性別や世代を超えて，男女が家族や社会の中で平等な関係を築き，共に生きる社会の一員として役割と責任を果たし，家庭や地域の生活を主体的に創造していくことが重要であることを認識させることとしている。さらに、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されるとある。

性別に関係なく自分らしく生きていくことは、人生を豊かにすることにつながる。子どもは周囲の言動から強く影響を受ける。「男らしさ」「女らしさ」の固定観念は周囲の大人の態度の影響、特に保育者や学校教員など教育現場の影響は看過できない。そのため、保育や教育を学ぶにあたっては、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重する視点を持つ必要がある。

今回の設問では、つくられる性差について、ランドセルの色選択に関する社会的様相を例に挙げた文章を理解し、多様な価値観や選択肢の存在の意義やそれらを尊重することの重要性について自分なりに考え、論理的に述べることができるかを評価のポイントとする。

【設問】文章を理解したうえで、つくられる性差に関する自身の考えを述べることができるか。

①つくられる性差を例に挙げた文章から、子どもの選択が阻害される現状について「社会的な意味合いとしてのランドセル」と「今の親世代の意識」の２つの観点を含めて述べること。

②子どもの選択が尊重されるためには、どのような変革が必要と考えるか自身の考えを含めて述べること。

参考：高等学習指導要領（平成 30 年）解説「家庭」編

編入学試験【出題意図】

幼児期の読み聞かせは保育の五領域の一つに「言葉」があるように、言語発達だけでなく 感性・共感・想像力の育成に結びつくことが期待されている。また、幼児期に培った「聞く」「楽しむ」経験が、小学校での「読む」「表現する」学びに接続することが意図されている。出題に用いた調査結果からは「幼児期の読み聞かせ体験が豊かだった子どもほど、小学生になってからひとりで絵本や本を読む（見る）頻度が高い傾向」も明らかにされている。

今回の試験では、①絵本や本の読み聞かせの頻度を調査した結果のグラフと、読み聞かせをしている保護者を対象に絵本や本の一日あたりの読み聞かせ時間を調査した結果のグラフの読み取りをすること、②幼児期における読み聞かせの意義について自身の認識を述べること、③それらを踏まえて保育・教育の現場において、絵本や本の読み聞かせに関してどのような活動が効果的かについての考えを論じてもらうこととした。この論述を通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。

設問に対して論理的で説得力のある文章であれば、どのような観点から論じてもかまわないが、参考までに回答する際の考え方の一例を示す。

①グラフに関しては読み聞かせの頻度は年齢が上がるにつれて低くなっていること、読み聞かせをしている家庭での一日あたりの時間は幼児期には「5 ～15 分未満」が多かったのが、小学校入学以降に「15 ～30 分未満」が増加していることを読み取れるとよい。全体の傾向として家庭ごとに差があることも読み取れるとよい。

②幼児期における読み聞かせの意義については、編入学試験受験者は保育の五領域に関する知識を持ったものであると想定されるため「言葉」領域のねらいに関連して述べられるとよい。特に絵本や物語に親しむこととの関連が述べられるとよい。

③保育・教育の現場における、絵本や本の読み聞かせに関する効果的な活動については、家庭での読み聞かせの頻度は年齢が上がるにつれて低くなることや読み聞かせの頻度と時間には家庭によって差がある現状を踏まえて、保育・教育の場で読み聞かせを積極的に取り入れることや、集団生活ならではの読み聞かせを通じてのやりとりを積極的に行うこと、さまざまな種類の絵本や本を揃えることなど、具体的な保育・教育活動での取組みが論じられるとよい。

一般選抜　D 日程入試【出願意図】

乳幼児期や児童期には、身近な大人の「幸福のあり方」や「人への関わり方」が、子どもの自己肯定感や他者への信頼感の形成に大きな影響を与える。特に、保育者や教員は、自らの幸福感を力として、子どもや保護者に向き合う姿勢が求められる。本問では、三木清の文章を手がかりに、「幸福は外に表れること」「幸福は人を支える力になること」について理解し、自分自身の経験と結びつけて考える力をみる。なお、本学の建学の精神である「徳を成す人間」をふまえ、他者への思いやりや誠実さなどの「徳」が、本人の幸福感や生きる力とどのように結びつくかを考える姿勢を重視する。

この問題では、次の二つの観点から解答を評価する。

第一は、課題文の理解度である。著者が述べる「幸福は表現である」「幸福は力である」という考えをどの程度とらえ、それを自分の言葉で説明できているかを評価する。本文の内容を、自分の生活経験や人との関わりに結びつけて理解できているかも重視する。

第二は、文章表現の適切性である。自分の経験をわかりやすく具体的に述べ、その経験から考えた「幸福」について、筋道立てて表現できているかを評価する。将来、子どもとかかわる専門職として、自分の考えを他者に伝える基礎的な文章力を評価する。

併設校入試（専願）1 次選考【出題意図】

昨今の子どもについての議論においては、子どもを無力で庇護すべきだけの存在とみなすのではなく、子どもを大人と対等な権利主体として尊重することの大切が指摘されている。問題文は、そうした子ども観に基づいた支援の形であるアドボカシーについての文章からの抜粋である。子ども学部での学びに備え、受験生が、現代社会に根強く残る「子ども差別」に向き合う姿勢があるかどうか、その背景になにがあるのかを検討する思考力があるかどうかを確認することを意図して出題した。

併設校入試（専願）2 次選考【出題意図】

子どもの体験活動の教育的意義を理解し、「体験格差」や「直接体験（野外活動・外遊び）不足」等の子どもを取り巻く環境に対して抽象的な理解ではなく、具体的なアプローチを模索することで子どもの生活や遊びをより身近に感じ、それを守っていく大人としての自覚をもってほしいと考える。

参考資料：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm（文部科学省 HP より）